

# 青年期の性役割形成と自我同一性地位および 自我機能との関連

## Relation of Gender-Role Formation to Ego-Identity Status and Ego-Function in Adolescence

芳田 茂樹      井上 知子\*      三川 俊樹\*  
Shigeki YOSHIDA      Tomoko INOUE      Toshiki MIKAWA

### I. 問題と目的

人間の発達段階において、児童期から成人期へと移行する過渡期として青年期は位置づけられ、生涯発達の中で特に心身ともに著しく発達する時期である。

Erikson, E.H. (1959)<sup>1)</sup>によればこの時期を、自我同一性の形成される時期であるとし、自己の所属する社会集団の中で自分というものが位置づけられることにより、自我の連続性と斉一性、帰属性が形成され維持されるようになる時期であるとした。しかし、わが国において、近年現代青年の実態は他の欧米諸国のものとは大きく隔たりがあり、その始期が早まり、終期が遅延するという拡大現象がみられ、高学歴化による学歴偏重主義的な社会風潮の影響もあり、他の文化とはかなり歪んだ青年期を過ごしているのが現状であり、青年にとっては、受験戦争、おちこぼれ、いじめや自我同一性の拡散の一樣相である心理・社会的モラトリアムといった諸々の心理的問題が新たに生じてきたのである（井上ほか、1989）<sup>2)</sup>。これは、アイデンティティの概念そのものの見直しということも必要であろうが、むしろ欧米で開発された尺度をそのまま適用することに限界があり、日本に適用する尺度の開発が必要とされる。

そこで、井上(1989)<sup>2)</sup>らは、青年期における人格形成と精神的健康を検討するためには、日本の文化、社会の現状に合致した新しい測定尺度の開発が必要であると考え、自我同一性および性役割の観点から実証的に検討することを目的に、測定尺度の開発を開発した。

三川(1989)<sup>3)</sup>らは、自我同一性について、自我同一性地位(Identity Status)の視点から操作的に定義することにし、人生の重要な領域に対する探索と傾倒の程度を測定する尺度を作成することにした。また、人生の重要な領域としては、「職業」と「価値」の2領

---

\* 追手門学院大学

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第13号（1993年）

域に加え、自分の専攻や学科にかかわる「学業」の領域を新たに設定した。また、性役割に関しては、Bem, S.L.によるBSRIやSpence, J.T.によるPAQなどの項目97項目の形容詞に対して自己評価させた結果をもとに、各項目の平均値を算出し、それぞれの性に特徴的な30項目を因子分析して、「男性統合性」「男性典型性」「女性統合性」「女性典型性」の4尺度からなる尺度を開発した。そして、この測定尺度を基に一連の研究として、青年期における人格形成と精神的健康を検討するために、価値観（三川ほか, 1990）<sup>4)</sup>、役割受容・充実感（三川ほか, 1991）<sup>5)</sup>との関連を検討してきた。本研究では、それら一連の研究を踏まえて、精神的健康を表すひとつの指標として、自我機能を取り上げ、性役割と自我同一性地位との関連について検討したい。

自我機能とは、中西(1989)<sup>6)</sup>らが、自我の強さ(ego-strength)をさらに分析的にみたもので、精神分析的自我心理学者のハルトマンやベラックらが発展させた精神分析の重要な基本概念であると指摘した。そして、発達心理学的な視点から、中高年の危機にある人々たちに対する適切なカウンセリングの技法を追求するため、その基礎となる成人期における人格の発達という観点から明らかにした。しかしながら、青年期において性役割や自我同一性地位が具体的にどのような自我機能と関連しているかについてはまだ十分に検討されていない。

そこで本研究では、青年期の人格形成における主要な要因である性役割形成が、自我同一性地位および自我機能といかに関連するかについて検討する。

## II. 方 法

### (1) 調査票の構成

#### ① 性役割の測定

性役割を測定するために、三川ら(1989)<sup>3)</sup>が作成した性役割尺度、「男性統合性」「男性典型性」「女性統合性」「女性典型性」の4因子40項目から構成する尺度（付表1）を用い、「⑤非常によくあてはまる」「④かなりあてはまる」「③ややあてはまる」「②ほとんどあてはまらない」「①全くあてはまらない」の5段階で自己評定させた。

得点化にあたっては、非常によくあてはまるものから5点～1点を与えた。

#### ② 自我同一性地位の測定

自我同一性地位を決定するために「探索(Exploration)」および「傾倒(Comittment)」の程度を測定する「自我同一性尺度」（三川ほか, 1989）を用いた（付表2）。

この尺度は、「職業領域」「価値領域」「学業領域」の3領域のそれぞれにおける「探索」と「傾倒」各8項目、計48項目から構成され、各項目がどの程度自分にあてはまるか

## 青年期の性役割形成と自我同一性地位および自我機能との関連

表1 調査対象の構成

男子	女子	合計
178名	178名	256名

を「⑤非常によくあてはまる」「④かなりあてはまる」「③あまりあてはまらない」「②ほとんどあてはまらない」「①全くあてはまらない」の5段階で自己評定させた。得点化にあたっては「探索」および「傾倒」を表す方向から5点～1点を与えた。なお、自我同一性地位の決定には、各領域ごとに「達成」「モラトリアム」「早期完了」「拡散」の4地位に分類する。

## ③ 自我機能の測定

自我機能尺度については、中西ら(1989)<sup>6)</sup>が開発した自我機能調査票(EFI)の改定版の「総合-統合機能」「現実感覚」「衝動統制」「対象関係」「防衛機能」「刺激障壁」「自律的機能」の7因子42項目から構成する尺度を用いそれぞれを測定した。得点化にあたっては、「とてもよくあてはまる(5)」から「まったくあてはまらない(1)」までの5段階で自己評定させて求めた。( )の数値を順項目の得点をウェイトとし、逆転項目は逆のウェイトをかけた。各機能の尺度得点は、6項目の平均得点として計算したので、3点を中央値として、1～5点に分布し、高得点ほどその自我機能がうまく働いていることになる。さらに、全体で平均得点を求めて、自我機能総得点を算出した。従って、8つの得点が得られたことになる。つまり、総得点は、自我機能が全体としてうまく働いているかどうかの目安になる指標である。なお、項目例を付表3に示した。

## (2) 調査対象・時期

被検者は、1992年4月に大阪府下に在るO学院大学大学生を対象に集団一斉法で行い、所要時間15分～20分で回答させ回収した。

なお、調査表のフェイス・シートには、性別・学年・年齢・学籍番号の記入を求めた。被検者数は、表1に示すとおり男子78名・女子178名、合計256名(1年生～4年生)であった。

## III. 結果と考察

## (1) 性役割、自我同一性、自我機能の性差について

性役割、自我同一性及び自我機能について男女別にすべてのデータを用いて平均とSD

表 2 - 1 性役割・自我同一性・自我機能尺度の平均とSDおよび性差

尺 度		男子 (N=78)		女子 (N=178)
性 役 割	男性統合性	35.24(5.38)		35.38(4.15)
	男性典型性	30.46(6.47)		30.76(5.47)
	女性統合性	32.27(6.13)	<<<	34.70(5.06)
	女性典型性	35.45(5.03)		36.64(5.16)
自 我 同 一 性	職業領域 探索	28.85(6.59)	<	30.66(5.31)
	傾倒	21.05(5.81)	<<<	23.75(5.78)
	価値領域 探索	30.62(5.91)		30.13(5.46)
	傾倒	21.74(7.17)		22.79(6.01)
	学業領域 探索	24.76(5.54)	<<<	28.01(4.70)
	傾倒	30.05(5.08)		31.27(4.36)
自 我 機 能	総合一統合	17.95( 4.46)	<<	19.31( 3.12)
	現実感覚	18.10( 5.04)		18.67( 4.40)
	衝動統制	16.56( 4.38)		16.50( 4.03)
	対象関係	20.04( 3.96)		20.86( 3.86)
	防衛機能	18.73( 3.65)		18.61( 3.20)
	刺激障壁	20.14( 4.80)		20.17( 3.90)
	自律的機能	16.36( 3.91)		17.30( 3.42)
	総得点	127.89(22.11)		131.42(18.23)

<;p<.05 , <<;p<.01 , <<<;p<.001

を求め、平均の差の検定（t検定）によって性差を検定した結果が表2-1である。

まず、性役割においては「女性統合性」にのみ0.1%水準で有意に女子の方が高い結果を得た。このことから、性役割形成について考えてみると、表2-2に示すような三川(1989)らが先に行った研究と比較してみると、「女性統合性」においては同様の結果を得たが、それ以外の尺度においては同様の結果にはならなかった。その理由として考えられることは、男子の女性典型性得点が増加し、女子の得点が減少したこと。また、女子の男性性役割の得点が増加したことが考えられる。これは、女子において男性性役割を獲得しているものが以前よりも多くなっているとも考えられるが、性役割尺度自身に内在する問題点のためとも考えられることから、現在性役割尺度について再考を重ねている。

自我同一性においては、「職業領域」において、「探索」で5%水準、「傾倒」では0.1%水準で有意に女子の方が高い結果を得た。「学業領域」においては、女子の「探索」

## 青年期の性役割形成と自我同一性地位および自我機能との関連

表 2-2 性役割・自我同一性の平均とSDおよび性差（三川ほか, 1989）

尺 度		男子 (N=91)		女 1 (N=214)
性 役 割	男性統合性	35.77(5.49)	>>	33.63(5.06)
	男性典型性	31.36(5.93)	>>>	29.03(5.37)
	女性統合性	32.05(6.10)	<	33.79(5.99)
	女性典型性	34.51(5.13)	<<<	37.01(4.92)
自 我 同 一 性	職業領域 探索	28.51(5.85)		29.80(4.58)
	傾倒	23.37(6.00)		22.74(5.45)
	価値領域 探索	30.10(5.38)		29.97(5.17)
	傾倒	22.87(6.51)		21.53(5.46)
	学業領域 探索	24.78(5.66)	<<	26.94(4.56)
	傾倒	28.70(6.23)		29.45(4.97)

< :  $p < .05$ , << :  $p < .01$ , <<< :  $p < .001$

が0.1%水準で有意に高かった。このことから、女子において将来の職業に対してより積極的に探索し、その上で自己投入していると推察できる。また、自分の学科や専攻についてもより積極的に自分の適性も踏まえ探索していると考えられる。三川(1989)らが行った先行研究と比較してみると、「職業領域」において違いがみられた。これは、職業において男女の雇用機会均等制が女子に浸透した結果とも考えられる。

自我機能については、「総合-統合機能」にのみ女子の方が1%水準で有意に高かった。「総合-統合機能」は、意欲的、情緒的にものごとに取り組もうとする活動力や自信を支えている機能であり、女子の方がより知的、情緒的において積極的に対処しているのではないかと推察できる。

## (2) 性役割と自我機能との関連について

性役割と自我機能との関係を検討するために、性役割の4尺度と自我機能の8尺度との相関をピアソンの相関係数によって算出し、男子の結果を表3-1に、女子の結果を表3-2に示した。

まず、男子では自我機能尺度の総得点に対して「女性統合性」および「男性典型性」が1%水準で有意な正の相関を示しており「男性統合性」もこれらと比較するとやや低いながらも1%水準で有意な正の相関を示している。中でも「女性統合性」は、自我機能の全ての尺度で1%水準あるいは5%水準での有意な正の相関を示している。特に「総合-統合機能」「対象関係」と最も高い正の相関を示している。「男性典型性」は「現実感覚」「衝動統

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第13号（1993年）

表 3 - 1 性役割と自我機能との関係（男子，N = 78）

性役割	自 我 機 能							総得点
	総合-統合	現実感覚	衝動統制	対象関係	防衛機能	刺激障壁	自律的機能	
男性統合性	.6513 **	.3355 **	.2052	.4926 **	.1272	.0949	.4589 **	.4593 **
男性典型性	.6485 **	.6245 **	.6172 **	.3407 **	.3900 **	.1225	.6677 **	.6654 **
女性統合性	.7108 **	.5530 **	.4327 **	.6640 **	.3624 **	.2877 *	.5875 **	.7001 **
女性典型性	-.1566	-.3312 **	-.6251 **	-.1122	-.2659 *	-.1230	-.3078 **	-.3760 **

\* ;p<.05 , \*\* ;p<.01

表 3 - 2 性役割と自我機能との関係（女子，N = 178）

性役割	自 我 機 能							総得点
	総合-統合	現実感覚	衝動統制	対象関係	防衛機能	刺激障壁	自律的機能	
男性統合性	.3261 **	.1218	.0910	.2611 **	-.1021	-.0980	.1329	.1467
男性典型性	.3847 **	.1938 *	.2675 **	.1378	.1725 *	.0470	.2813 **	.2940 **
女性統合性	.4373 **	.2122 **	.1159	.5801 **	.0629	.0749	.1849 *	.3362 **
女性典型性	-.1699 *	-.3058 **	-.6362 **	.0311	-.4064 **	-.2848 **	-.3800 **	-.4403 **

\* ;p<.05 , \*\* ;p<.01

制」「自律的機能」との間に最も高い正の相関を示しており、自己の衝動や感情をコントロールし、生き生きとした生活を送るためには「男性典型性」の獲得が必要であると考えられる。

逆に「女性典型性」は自我機能尺度の総得点、「現実感覚」「衝動統制」「自律的機能」との間に1%水準で、「防衛機能」とは5%水準でそれぞれ有意な負の相関を示している。特に「衝動統制」との間で最も高い負の相関を示した。

女子の場合においては、「男性典型性」と「女性統合性」が男子同様に自我機能尺度の総得点と1%水準で有意な正の相関を示し、「女性典型性」と1%水準で有意な負の相関を示した。しかし「男性統合性」と自我機能尺度の総得点との間には有意な相関は見られなかった。中でも「男性典型性」は「総合-統合機能」「衝動統制」および「自律的機能」との間で高い相関を示した。「女性統合性」においては、「総合-統合機能」「現実感覚」および「対象関係」との間で高い相関を示した。また「女性典型性」においては、「対象

## 青年期の性役割形成と自我同一性地位および自我機能との関連

関係」を除いて有意な負の相関を示した。特に「衝動統制」「防衛機能」との間に有意な高い負の相関を示した。

女子の場合、自分の感情をコントロールし、仕事や学習、趣味などに意欲的に取り組もうとする活動力には「男性典型性」が必要であると考えられ、周囲との良好な関係を保ち、生き生きとした生活をおくる上では「女性統合性」の獲得が必要であると思われる。

以上の結果からみると、男女に共通していえることは、情緒的側面を包括したいわゆるヤル気や活動力を得るためには「男性統合性」「男性典型性」「女性統合性」の獲得が必要であると考えられる。逆に女子において「女性典型性」を獲得することは、ネガティブな自我の形成につながると考えられる。

## (3) 自我同一性地位の決定要因としての「探索」「傾倒」と自我機能との関連

職業、価値、学業の各領域ごとに、「探索」「傾倒」尺度と自我機能8尺度との相関をピアソンの相関係数によって算出し、男子の結果を表4-1に、女子の結果を表4-2に示した。

まず、男子においては、職業および価値の領域における「傾倒」が自我機能尺度の総得点と1%水準で有意な正の相関を示した。特に、価値領域の「傾倒」とは最も高い相関を示しており、自我機能の下位尺度の「刺激障壁」を除く全ての尺度において1%水準で有意に高い相関を示している。しかし、学業領域の「傾倒」と自我機能尺度の総得点の間には、有意な相関は認められなかった。次に「探索」については、ほとんど有意な相関が認められず、学業領域の「総合-統合」との間に1%水準で、また職業領域の「対象関係」

表4-1 自我同一性と自我機能との関係(男子, N=78)

自我同一性	自我機能							
	総合-統合	現実感覚	衝動統制	対象関係	防衛機能	刺激障壁	自律的機能	総得点
職業領域 探索	.1154	.1317	-.0379	.2294 *	.0574	.0846	.1136	.1348
傾倒	.3959 **	.3591 **	.2135	.3556 **	.1962	.1123	.3873 **	.3929 **
価値領域 探索	.0665	-.0685	-.1255	-.0811	-.0797	.1181	-.0540	-.0386
傾倒	.6570 **	.6304 **	.4954 **	.4030 **	.3125 **	.1902	.5855 **	.6428 **
学業領域 探索	.2929 **	.1805	-.0372	.1625	-.0894	-.0537	.1414	.1205
傾倒	.2691 *	.0975	.0241	.1996	.0284	.0497	.1676	.1621

\* ;p&lt;.05 , \*\* ;p&lt;.01

表 4 - 2 自我同一性と自我機能との関係（女子，N = 178）

自我同一性	自 我 機 能							総得点	
	総合-統合	現実感覚	衝動統制	対象関係	防衛機能	刺激障壁	自律的機能		
職業領域	探索	.1236	.0918	-.0672	.1230	-.0151	.0220	-.0348	.0516
	傾倒	.3599 **	.2839 **	.1803 *	.1104	.0740	.1411	.2158 **	.2770 **
価値領域	探索	-.0237	-.1994 **	-.1805 *	-.0821	-.1232	-.1496 *	-.1578 *	-.1926 *
	傾倒	.5693 **	.4687 **	.2795 **	.2257 **	.2140 **	.1776 *	.3896 **	.4688 **
学業領域	探索	.1091	-.0158	-.1290	.0976	-.0277	-.0231	-.0696	-.0158
	傾倒	.3115 **	.0611	.0445	.2087 **	.0097	.0205	.0799	.1310

\* ;p&lt;.05 , \*\* ;p&lt;.01

との間に5%水準でそれぞれ有意な正の相関がみられただけだった。

これらの結果からみると、健康な自我機能をもたらす要因は「傾倒」であり、人生における重要な領域、特に職業と価値において、自分の将来の職業を選択し、それに向かって打ち込むことや自分自身の生き方が決まっていることは、自分の感情や欲求をコントロールし、何事にも意欲的かつ積極的に取り組むという、よりポジティブな自我機能を高めるといふことと密接な関連性があると考えられる。

女子の場合には、職業領域および価値領域における「傾倒」が、自我機能尺度の総得点と1%水準で有意な正の相関を示し、しかも価値領域の「傾倒」は下位尺度の全ての尺度と有意な正の相関を示したが、学業領域においては総得点との間には有意な相関は認められなかった。また、価値領域においては、「探索」と自我機能尺度の総得点との間に1%水準で有意な負の相関が認められたほか、下位尺度の「現実感覚」「衝動統制」「刺激障壁」「自律的機能」との間にも有意な負の相関を示した。

これらの結果から検討すると、女子の場合にも、価値や職業という重要な領域へ自己を投入することが、自己充実感に満ち、安定した自我の機能を持つ健康なパーソナリティを形成することにつながると考えられる。しかしながら、男子とは異なり、価値領域での探索や迷いの経験は、むしろ健康な自我機能を阻害するものと考えられ、生き方における迷いが多いほど、ストレスや葛藤に影響されやすく、自分が自分でない感じや現実を喪失した感じといった自己不全感を獲得してしまう可能性があると考えられる。



## 青年期の性役割形成と自我同一性地位および自我機能との関連

## (4) 自我同一性地位と性役割との関連

自我同一性地位の「達成」「モラトリアム」「早期完了」「拡散」のそれぞれにおいて、性役割の各側面がどの程度達成されているかを検討した。

自我同一性地位の決定にあたっては、男女別に表5に示した「探索」および「傾倒」尺度の平均値を基準とし、各個人の得点に基づいて、4つの同一性地位のいずれかに分類した。すなわち、それぞれの領域ごとに「探索」および「傾倒」がともに基準値以上の群を「達成」とし、「探索」は基準値以上であるのに対して「傾倒」が基準値未満の群を「モラトリアム」とした。また、「探索」は基準値未満であるのに対して「傾倒」は基準値以上の群を「早期完了」とし、「探索」および「傾倒」がいずれも基準値未満の群を「拡散」とした。なお、それぞれの領域における各地位の出現度数を表6に示した。

次に、自我同一性地位の各地位における性役割の達成の程度を検討するために、それぞれの地位ごとに性役割4尺度の平均と標準偏差を求め、表7-1、表7-2に示した。また、それぞれの得点を、一元配置の分散分析によって検定した結果を併せて示した。

表5 自我同一性地位尺度の平均とSD

下位尺度	男子(N=78)	女子(N=178)	
職業領域	探索	28.85(6.59)	30.66(5.31)
	傾倒	21.05(5.81)	23.75(5.78)
価値領域	探索	30.62(5.91)	30.13(5.46)
	傾倒	21.74(7.17)	22.79(6.01)
学業領域	探索	24.76(5.54)	28.01(4.70)
	傾倒	30.05(5.08)	31.27(4.36)

表6 各領域ごとの同一性地位の度数

	男子(N=78)				女子(N=178)			
	達成	モラトリアム	早期完了	拡散	達成	モラトリアム	早期完了	拡散
職業領域	19	25	3	31	68	45	21	44
価値領域	18	22	13	25	53	47	42	36
学業領域	32	6	17	23	87	28	36	27

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第13号（1993年）

まず、男子について検討する。

職業領域において、4つの自我同一性地位の間に有意な条件差が認められたのは、「女性統合性」のみであった。つまり、職業領域における自我同一性地位には、周囲との協調性のある「女性統合性」と関係している。中でも、「早期完了」が最も高い得点を示していることから、いわゆる伝統的な男性性役割の獲得と深く関係しているとした三川ら（1989）の先の結果とは異なった結果になった。しかし、これは自分が将来の職業に対して周囲に影響されず、自分の意志だけで決定しているというよりむしろ、周囲の意見を参考に自分の意志を決定している柔軟性を示唆している。

表7-1 自我同一性地位と性役割との関係（男子，N=78）

自我同一性地位		達成 (N=19)	モラトリアム (N=25)	早期完了 (N=3)	拡散 (N=31)	分散分析 F (3,74)
性役割						
職業領域	1. 男性統合性	36.68( 5.20)	36.04( 5.87)	37.67( 1.25)	33.48( 4.79)	1.992
	2. 男性典型性	33.11( 6.73)	29.92( 7.22)	33.00( 2.94)	29.03( 5.26)	1.803
	3. 女性統合性	35.11( 5.67)	32.64( 6.34)	35.67( 2.87)	29.90( 5.46)	3.508 *
	4. 女性典型性	35.68( 6.10)	35.48( 4.55)	33.00( 4.24)	35.52( 4.68)	0.243
自我同一性地位		達成 (N=18)	モラトリアム (N=22)	早期完了 (N=13)	拡散 (N=25)	分散分析 F (3,74)
性役割						
価値領域	1. 男性統合性	37.89( 5.98)	33.27( 5.72)	36.38( 3.85)	34.48( 4.29)	2.970 *
	2. 男性典型性	35.72( 5.38)	27.18( 5.77)	33.46( 5.30)	28.00( 5.08)	10.921 **
	3. 女性統合性	36.11( 6.37)	29.59( 5.42)	33.15( 6.20)	31.40( 4.90)	4.511 **
	4. 女性典型性	34.22( 4.37)	37.36( 4.87)	31.54( 4.94)	36.68( 4.25)	5.204 **
自我同一性地位		達成 (N=32)	モラトリアム (N=6)	早期完了 (N=17)	拡散 (N=23)	分散分析 F (3,74)
性役割						
学業領域	1. 男性統合性	36.69( 6.19)	34.83( 2.41)	34.94( 3.70)	33.57( 5.24)	1.556
	2. 男性典型性	31.91( 7.33)	29.67( 6.52)	30.88( 5.99)	28.35( 4.70)	1.406
	3. 女性統合性	34.25( 6.54)	30.83( 4.02)	31.29( 4.66)	30.61( 6.16)	1.980
	4. 女性典型性	36.50( 5.09)	33.00( 4.73)	33.82( 5.23)	35.83( 4.33)	1.587

\* :  $p < .05$     \*\* :  $p < .01$

## 青年期の性役割形成と自我同一性地位および自我機能との関連

価値領域については、4つの性役割尺度すべてにおいて、同一性地位間に有意な条件差が認められた。特に「モラトリアム」は「男性統合性」「男性典型性」「女性統合性」の3尺度において最も得点が低く、「女性典型性」においては4つの地位間で最も高い得点を示した。この結果から、価値領域において「モラトリアム」型の男子が、典型的な女性性役割を獲得していると考えよりむしろ、男性性役割を獲得していないと考えられる。

その結果、生き方や価値観に対して多くの迷いを経験し、最終的に傾倒すれば「達成」に至るのではないかと推察できる。

学業領域については、いずれの性役割尺度においても、地位間に有意な条件差が認めら

表7-2 自我同一性地位と性役割との関係(女子, N=178)

自我同一性地位		達成 (N=68)	モラトリアム (N=45)	早期完了 (N=21)	拡散 (N=44)	分散分析 F (3,174)
性役割						
職業領域	1. 男性統合性	35.94(4.61)	34.56(3.21)	36.10(4.81)	35.02(3.71)	1.322
	2. 男性典型性	32.21(5.38)	28.93(4.85)	34.29(4.95)	28.73(4.87)	9.302 **
	3. 女性統合性	35.90(5.43)	34.07(3.94)	35.62(4.85)	33.07(5.03)	3.372 *
	4. 女性典型性	36.68(5.50)	37.96(4.10)	35.14(5.91)	35.95(4.88)	1.844
自我同一性地位		達成 (N=53)	モラトリアム (N=47)	早期完了 (N=42)	拡散 (N=36)	分散分析 F (3,174)
性役割						
価値領域	1. 男性統合性	36.21(4.74)	35.19(3.64)	35.43(4.29)	34.36(3.38)	1.462
	2. 男性典型性	33.53(4.71)	28.62(4.72)	31.90(5.84)	28.17(4.55)	12.118 **
	3. 女性統合性	36.68(4.93)	33.02(4.27)	35.33(5.61)	33.25(4.28)	6.081
	4. 女性典型性	36.58(4.71)	38.09(5.12)	35.60(4.94)	36.06(5.64)	1.984
自我同一性地位		達成 (N=87)	モラトリアム (N=28)	早期完了 (N=36)	拡散 (N=27)	分散分析 F (3,174)
性役割						
学業領域	1. 男性統合性	36.31(4.47)	35.29(2.67)	34.47(3.72)	33.70(4.12)	3.635 **
	2. 男性典型性	32.03(5.47)	27.82(4.54)	30.72(5.25)	29.78(5.22)	4.833 **
	3. 女性統合性	36.45(4.71)	32.64(4.27)	34.11(4.90)	32.00(4.93)	8.681 **
	4. 女性典型性	37.66(4.93)	36.93(4.23)	35.28(5.60)	34.89(5.27)	3.118 *

\* : p&lt;.05 \*\* : p&lt;.01

れなかった。男子の場合、学業に関する自我同一性地位は、性役割達成の程度とは関連がないといえる。

次に女子の結果について検討する。

職業領域では、「男性典型性」および「女性統合性」の2尺度において、4つの自我同一性地位間に有意な条件差が認められた。このうち、「男性典型性」については、「達成」と「早期完了」がともに高く、「モラトリアム」と「拡散」は低い得点を示した。つまり、職業に対してその内容などを理解し、打ち込んでいくためには、典型的な男性性役割の獲得が関係していると思われる。

価値領域については、「男性典型性」にのみ4つの自我同一性地位間に有意な条件差が認められた。特に職業領域と同じように「達成」と「早期完了」がともに高く、「モラトリアム」と「拡散」の得点が低いことから、女子において、自分の生き方や価値観の確立には男性性役割の獲得が重要な役割を果たしているといえる。つまり、将来の職業を選択することや価値（生き方）を確立するなど、成熟した性役割の獲得には男性性役割が必要であり、このことから「女性統合性」の達成には、「男性典型性」の獲得が重要な役割をもつのではないかという三川ら(1989)の考えを踏襲できる。

学業領域においては、4つの性役割尺度すべてにおいて、同一性地位間に有意な条件差が認められた。学業において自分の適性や専攻に迷い、その中から自分に相応しい専攻を決定することと性役割を獲得していくことは深く関係していると考えられる。現代社会において、職業の選択や価値観の確立、そして学科専攻の決定が、男性性役割の獲得に根ざしたものであると考えるならば、女子において、迷いや探索を経験しながら男性性を獲得することが大きく関与しているものと推察できる。

#### （5）自我同一性地位と自我機能との関連

自我同一性地位と自我機能との関係を検討するために、それぞれの地位ごとに自我機能8尺度の平均と標準偏差を求め、表8-1、表8-2に示した。また、それぞれの自我同一性地位における自我機能8尺度の得点を、一元配置の分散分析によって検定した結果を併せて示した。

まず、男子の結果について検討した。

職業領域および学業領域においては、自我機能すべての尺度と4つの自我同一性地位間に有意な条件差は認められなかった。つまり、自分の職業や専攻に対して迷いや探索を経験し、その上で自己投入することに傾倒することと自我の強さとは顕著な関係はなかった。

価値領域については、「刺激障壁」を除いた他のすべての尺度と4つの自我同一性地位間に有意な条件差が認められた。特に、すべての尺度において「達成」と「早期完了」の得点が高く、「モラトリアム」と「拡散」の得点が低かった。このことから、人生におい

## 青年期の性役割形成と自我同一性地位および自我機能との関連

表 8-1 自我同一性地位と自我機能との関係 (男子, N = 78)

自我同一性地位	達成 (N=19)	モラトリアム (N=25)	早期完了 (N=3)	拡散 (N=31)	分散分析 F(3,74)
職業領域					
1. 総合-統合機能	19.95(4.59)	17.16(4.61)	21.00(1.63)	17.06(3.88)	2.519
2. 現実感覚	20.26(5.34)	17.16(4.86)	19.00(4.32)	17.45(4.63)	1.682
3. 衝動統制	17.16(5.00)	15.40(4.09)	20.00(3.27)	16.81(3.99)	1.354
4. 対象関係	21.74(4.59)	20.00(3.84)	21.00(2.94)	18.94(3.27)	2.090
5. 防衛機能	19.84(3.59)	18.20(3.26)	19.67(2.36)	18.39(3.92)	0.904
6. 刺激障壁	20.95(4.26)	20.08(5.34)	19.67(0.47)	19.74(4.82)	0.250
7. 自律機能	18.05(4.52)	16.36(3.59)	18.33(3.30)	15.13(3.29)	2.586
総得点	137.95(24.16)	124.36(21.86)	138.67(12.71)	123.52(19.21)	2.240
価値領域					
1. 総合-統合機能	21.39(4.10)	15.73(3.82)	19.85(4.49)	16.44(3.10)	9.329 **
2. 現実感覚	21.78(4.71)	14.41(4.39)	21.23(3.87)	17.08(3.27)	13.377 **
3. 衝動統制	18.89(3.80)	14.50(3.86)	19.85(3.82)	15.00(3.61)	8.771 **
4. 対象関係	21.78(4.10)	18.14(3.79)	21.85(3.42)	19.52(3.26)	4.357 **
5. 防衛機能	19.78(3.26)	17.32(3.81)	21.08(3.47)	18.00(3.01)	4.104 **
6. 刺激障壁	22.17(4.63)	19.55(5.57)	20.77(3.89)	18.88(4.02)	1.868
7. 自律機能	18.56(4.04)	14.50(2.97)	18.62(4.53)	15.24(2.66)	6.894 **
総得点	144.33(20.99)	114.14(19.21)	143.23(18.54)	120.16(12.70)	13.649 **
学業領域					
1. 総合-統合機能	19.22(4.86)	17.67(1.97)	17.71(4.62)	16.43(3.62)	1.808
2. 現実感覚	19.03(5.24)	18.67(4.31)	17.29(4.47)	17.26(5.08)	0.730
3. 衝動統制	16.19(4.73)	16.50(4.23)	17.65(4.00)	16.30(4.03)	0.438
4. 対象関係	20.59(4.51)	18.50(2.22)	19.88(2.56)	19.78(4.19)	0.537
5. 防衛機能	18.00(3.77)	19.00(2.24)	20.24(2.98)	18.57(3.89)	1.419
6. 刺激障壁	19.44(5.01)	18.17(4.56)	21.29(4.43)	20.78(4.49)	1.019
7. 自律機能	16.53(4.33)	18.67(3.30)	16.76(3.73)	15.22(3.12)	1.439
総得点	129.00(25.61)	127.17(17.17)	130.82(16.94)	124.35(20.87)	0.313

\* : p&lt;.05    \*\* : p&lt;.01

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第13号（1993年）

表 8 - 2 自我同一性地位と自我機能との関係（女子，N = 178）

自我同一性地位	達成 (N=68)	モラトリアム (N=45)	早期完了 (N=21)	拡散 (N=44)	分散分析 F(3,174)
職業領域					
自我機能					
1. 総合一統合機能	20.24( 3.18)	18.51( 2.95)	20.48( 2.99)	18.14( 2.59)	6.548 **
2. 現実感覚	19.41( 4.48)	17.82( 4.20)	20.00( 3.95)	17.75( 4.32)	2.529
3. 衝動統制	16.93( 4.07)	15.60( 3.42)	17.57( 4.85)	16.25( 3.90)	1.562
4. 対象関係	21.18( 4.22)	21.47( 3.41)	20.62( 3.30)	19.86( 3.75)	1.534
5. 防衛機能	18.59( 3.30)	18.53( 2.83)	20.00( 3.77)	18.05( 2.88)	1.805
6. 刺激障壁	20.82( 3.85)	20.04( 3.75)	20.81( 4.40)	18.98( 3.55)	2.250
7. 自律機能	17.78( 3.61)	16.33( 3.48)	18.38( 3.18)	17.05( 2.85)	2.466
総得点	134.94(19.09)	128.31(15.28)	137.86(18.19)	126.07(17.52)	3.548 **
価値領域					
自我同一性地位	達成 (N=53)	モラトリアム (N=47)	早期完了 (N=42)	拡散 (N=36)	分散分析 F(3,174)
自我機能					
1. 総合一統合機能	20.70( 2.93)	17.43( 2.77)	20.79( 2.73)	18.00( 2.26)	18.646 **
2. 現実感覚	19.47( 4.14)	16.49( 4.22)	20.93( 3.53)	17.69( 4.33)	9.972 **
3. 衝動統制	16.91( 3.23)	15.23( 3.67)	17.93( 4.11)	15.89( 4.74)	3.931 **
4. 対象関係	20.89( 3.27)	19.98( 4.43)	21.79( 4.23)	20.89( 3.05)	1.634
5. 防衛機能	19.08( 3.16)	17.62( 2.92)	19.31( 3.36)	18.39( 3.05)	2.273 *
6. 刺激障壁	20.13( 3.77)	19.47( 3.99)	21.43( 4.19)	19.67( 3.19)	2.203
7. 自律機能	18.47( 3.28)	15.34( 3.26)	18.64( 2.77)	16.58( 3.09)	11.595 **
総得点	136.64(15.96)	121.55(16.87)	140.81(15.88)	127.11(18.11)	11.644 **
学業領域					
自我同一性地位	達成 (N=87)	モラトリアム (N=28)	早期完了 (N=36)	拡散 (N=27)	分散分析 F(3,174)
自我機能					
1. 総合一統合機能	19.91( 3.12)	18.32( 2.88)	19.36( 2.90)	18.33( 3.17)	2.963 *
2. 現実感覚	18.98( 4.65)	18.36( 3.91)	18.19( 4.43)	18.63( 3.93)	0.323
3. 衝動統制	16.21( 4.12)	16.07( 3.39)	17.44( 4.19)	16.63( 3.91)	0.922
4. 対象関係	21.56( 3.70)	20.64( 3.72)	20.22( 3.63)	19.67( 4.29)	2.216
5. 防衛機能	18.72( 3.23)	18.64( 2.39)	18.39( 3.16)	18.48( 3.79)	0.108
6. 刺激障壁	20.05( 3.70)	20.71( 3.94)	20.11( 3.58)	20.07( 4.74)	0.216
7. 自律機能	17.25( 3.15)	16.71( 4.03)	17.78( 3.47)	17.44( 3.41)	0.521
総得点	132.68(18.28)	129.46(17.27)	131.50(18.56)	129.26(18.25)	0.370

\* : p&lt;.05    \*\* : p&lt;.01

## 青年期の性役割形成と自我同一性地位および自我機能との関連

で自分の生き方や価値に信念をもち自己投入することが、健康な自我機能を獲得するものと考えられる。

次に女子の結果について検討した。

職業領域においては、「総合—統合機能」および自我機能の総得点で4つの自我同一性地位間に有意な条件差が認められたが、その他の尺度とは有意差は認められなかった。同一性地位ごとに平均を比較すると、男子の価値領域同様「達成」および「早期完了」が高く、「モラトリアム」と「拡散」が低かった。このことから、将来の職業に対する対策がすでに進行しており、それを実現するために資格を取ったり、専門的な勉強をすることが、意欲的にかも積極的にもものごとに取り組もうとする活動力や自信を支えている機能である「総合—統合機能」を獲得するといえよう。

価値領域においては、「総合—統合機能」「現実感覚」「衝動統制」「防衛機能」「自律機能」および自我機能の総得点の尺度と4つの自我同一性地位間に有意差が見られた。特徴的なのは、各尺度間の平均を比較すると同一性の「早期完了」地位が最も高い得点を示した。つまり自分の生き方や価値に関してすでに「傾倒」を経験している「達成」や「早期完了」型の女子は、健康で円滑な自我の機能を有しているといえるのではないだろうか。

学業領域では、4つの自我同一性地位間とは「総合—統合機能」のみ有意差を認めた。つまり、自分の専攻や学科に自己投入することが、ひいては何事にも意欲的に積極的に対処できる自我機能を獲得することができると思われる。

## IV. 結 論

本研究においては、三川（1989）らが作成した「性役割尺度」および「自我同一性地位尺度」に加えて、中西（1989）らによって作成された自我機能調査票（E F I）を併せて実施し、青年期の性役割形成に関連する要因のうち、自我同一性地位及び自我機能との関連について検討した。

まず、性役割と自我機能との関連では、男女ともに「男性統合性」「男性典型性」「女性統合性」の3尺度が、自我機能と深く関連していることが示された。また、それぞれの性役割における「統合性」の獲得が、「典型性」よりも成熟したあり方であり、精神的な健康を示すという仮説については、男女とも支持できよう。特に、男子の場合、「女性統合性」と自我機能との関連が、「男性統合性」との関連よりも深く関わっており、自我機能が精神的健康の指標とするならば、男子においては「女性統合性」を獲得することが、精神的健康につながる結果となった。しかしながら、なぜ「女性統合性」なのかという疑問については言及することはできないが、性役割尺度や調査対象に何らかの問題点も考え

られ、今後再検討する。

次に、自我同一性の「探索」および「傾倒」と自我機能との関連を検討した。その結果、男子では、職業領域において「総合－統合機能」「現実感覚」「対象関係」および「自律機能」と「傾倒」が深い関連性をもつことが示され、将来の職業に自己投入できることが、自己の感情をコントロールし、周囲との関係を良好に保つような自我の機能を供え持つことができるといえる。価値領域においても、「刺激障壁」を除く他の尺度と「傾倒」との間に深い関連があることが示され、健康な自我機能をもつことは「生きること」に活力を与えると解釈できる。学業領域においては、職業および価値領域と多少異なり、「総合－統合機能」と「探索」に特徴的な関連がみられ、自分の学科や専攻に迷い探索することが、ものごとへの前向きな姿勢を作り出すと考えられる。一方、女子においても、男子とほぼ同様の結果が、職業領域においては認められた。価値領域において「現実感覚」「衝動統制」「刺激障壁」「自律機能」と「探索」との間に有意な負の相関が認められた点が男子とは異なり、生き方や価値に対する迷いを経験せずに自己投入できることが、環境に適応できることが考えられる。

最後に、自我同一性地位と自我機能との関連を検討した。4つの自我同一性地位間で条件差の見られた自我機能を検討した結果、男子においては、職業および学業領域においては顕著な差は認められなかったが、価値領域においては「刺激障壁」を除いて自我同一性地位間で有意な差が認められた。特に、「達成」と「早期完了」が高得点である。つまり、「探索」の経験の有無に係わらず、生き方や価値に対して自己投入することが健康な自我機能を獲得できることが特徴である。

また女子では、職業および学業領域において「総合－統合機能」と自我同一性地位間に有意な差が見られ、どちらも「達成」と「早期完了」の得点が「モラトリアム」と「拡散」の得点よりも高かった。つまり、自分の考えや信念に基づいて専念することができれば、人格全体を統合した自我機能を獲得でき、意欲的且つ積極的にものごとに取り組み自分の考えや信念、生き方に傾倒できるものと解釈できる。また、価値領域においても、男子とほぼ同様に自己投入できれば健康な自我機能を獲得できるといえる。

以上の結論から考えあわせると、青年期的人格形成における主要な要因としての性役割の形成については、自我同一性の確立および健康な自我機能の獲得が、重要な影響を及ぼしていることは明らかになった。しかしながら、どのようにして性役割の「統合性」および「典型性」の獲得が成熟した性役割の形成につながるかという点においては検討する余地があり、今後さらに検討をかさねていきたい。



## 青年期の性役割形成と自我同一性地位および自我機能との関連

## 引用文献

- 1) Erikson, E.H. 1959 Identity and the life cycle. Psychological Issues. (小此木啓吾 訳編 1973 アイデンティティとライフサイクル 誠信書房)
- 2) 井上知子・三川俊樹・芳田茂樹 1989 青年期における人格形成と精神的健康に関する研究 (I) - 研究方法に関する文献展望 -, 追手門学院大学文学部紀要, 23, 1-17.
- 3) 三川俊樹・井上知子・芳田茂樹 1989 青年期における人格形成と精神的健康に関する研究 (II) - 自我同一性地位および性役割の測定 -, 追手門学院大学文学部紀要, 23, 19-36.
- 4) 三川俊樹・井上知子・芳田茂樹 1990 青年期における人格形成と精神的健康に関する研究 (III) - 性役割および自我同一性地位と価値観の関連 -, 追手門学院大学文学部紀要, 24, 23-37.
- 5) 三川俊樹・井上知子・芳田茂樹 1991 青年期における人格形成と精神的健康に関する研究 (V) - 性役割および自我同一性地位と役割受容・充実感の関連 -, 追手門学院大学文学部紀要, 25, 51-67.
- 6) 中西信男・佐方哲彦 1989 成人期の自我機能の発達とカウンセリグー自我機能調査票 (E F I) による検討 -, カウンセリング研究, Vol.21, No.2, 21-30.

## 参考文献

- 井上知子・三川俊樹・芳田茂樹 1990 青年期における人格形成と精神的健康に関する研究 (IV) - 性役割尺度再考 -, 追手門学院大学文学部紀要, 24, 39-48.
- 井上知子・三川俊樹・芳田茂樹 1992 青年期の性役割形成とその関連要因に関する研究 (V) - 性役割と自我同一性、自我機能との関連から -, 関西心理学会第104回大会発表論文集, 57.
- 芳田茂樹 1991 青年期における性役割形成と達成動機との関連について, 大手前女子短期大学研究集録, 11, 1-13.

## &lt;付 記&gt;

本研究の一部は、関西心理学会第104回大会において発表したが、本研究をまとめるにあたり加筆・修正した。

〈付表1〉 性役割尺度の項目一覧

男性統合性	女性統合性
1. 思いやりがある	3. 陽気である
5. 誠意がある	7. 活動的である
9. 良心的である	11. 友好的である
13. やさしい	15. 社交的である。
17. 親切である	19. 力強い
21. 温厚である	23. 頼りになる
25. 正直である	27. 人に献身的である
29. 知的である	31. 感謝の気持ちをもつ
33. 話し方がおだやかである	35. 積極的である
37. きれい好きである	39. 人の気持ちに気づく
男性典型性	女性典型性
2. 臆病でない	4. 嫉妬深い
6. 仕事の手腕がある	8. 感情的である
10. 容易に決断を下せる	12. すぐに泣く
14. 男性的である	16. 傷つきやすい
18. 人の影響を受けにくい	20. 安心を求める
22. 自分に自信がある	24. 人に認めてもらいたい
26. 支配的である	28. 重大な危機に動揺する
30. 少しぐらいのことでは動じない	32. 同情的である
34. 自分の信念を曲げない	36. 傷ついた心をなぐさめたくない
38. 個性が強い	40. 計画性がない

〈付表2〉 自我同一性地位尺度（\*は逆転項目を示す）

## A. 職業領域

## 探 索 (Exploration)

1. 私は、自分がどんな職業につきたいのか、あれこれと悩んだことがある
2. 私は、将来の職業について、いろいろな面から検討してみたことがある
3. 私は、将来の職業について、誰かに相談したことがある
4. \* 私は、将来の職業について、今まで真剣に考える機会がなかったと思う
5. 私は、将来の職業について、自分の適性や能力を考えてみたことがある
6. 私は、将来の職業について、いろいろと考えてみたことがある
7. 私は、自分がどんな職業に向いているのか、あれこれと考えてみたことがある
8. \* 私は、将来の職業について、今はまだ考えたくない

## 傾 倒 (Commitment)

1. \* 私は、自分が本当にやってみたい仕事は何なのか、まだよくわからない
2. 私は、自分がどんな職業につくのか、すでに決心している
3. 私は、希望する職業につくために、資格を取ったり、専門的な勉強をしている
4. \* 私は、現在のところ、こういう仕事をしたいというものは考えていない
5. \* 私は、自分の職業を一つに決めてしまうのは、何となく不安である
6. \* 私は、一つの仕事に、本当に打ち込んでいけるかどうか心配である
7. 私は、将来つきたいと思っている仕事の内容を、よく理解しているつもりである
8. \* 私は、どんな職業につくかは、なりゆきにまかせるのがよいと思う

## B. 価値領域

## 探 索 (Exploration)

1. \* 私は、自分の生き方については、あまり深く考えたことがない

## 青年期の性役割形成と自我同一性地位および自我機能との関連

2. 私は、自分の生き方について、いろいろと考えたことがある
3. 私は、小さい頃からもっていた価値観や信念に、疑いをもったことがある
4. 私は、自分の信念や価値観について深く考えたことがある
5. \* 私は、生き方とか価値観というものには、今まで関心をもったことがない
6. 私は、自分の人生について、真剣に考えてみたことがある
7. 私は、どんな生き方がよいのか、いろいろと悩んだことがある
8. 私は、自分の生き方に自信がもてなくなったことがある

## 傾倒 (Commitment)

1. \* 私は、自分の生き方について、あまり自信がない方である
2. 私は、はっきりとした人生の目標をもっている方である
3. \* 私には、「これが自分の人生だ」と自信をもって言えるものがないように思う
4. 私は、自分に合った生き方を見つけていると思う
5. 私は、自分にとって一番ふさわしい生き方をしていると思う
6. \* 私は、なりゆきまかせで人生を送っているような気がする
7. \* 私は、自分の生き方や信念は、まだ定まっていないと思う
8. \* 私は、どんな生き方をすればよいのか、まだよくわからない

## C. 学 業 領 域

## 探 索 (Exploration)

1. 私は、自分の専攻を選ぶときに、いろいろと悩んだ方である
2. \* 私は、自分の専攻について、あまり深く考えたことがない
3. 私は、現在の専攻を選択する際に、自分の適性或能力について考えてみたことがある
4. \* 私は、あまりよく考えずに、現在の専攻を選んだように思う
5. 私は、現在の専攻の中で、自分にあったものを見つけようと努力してきた
6. 私は、自分が現在の専攻に適しているかどうか、深く考えたことがある
7. 私は、どのような専攻を選ぶかについて、あれこれと迷ったことがある
8. 私は、現在の専攻を選択するときに、誰かに相談したことがある

## 傾倒 (Commitment)

1. 私は、現在の専攻について勉強することが楽しい
2. 私は、この専攻を選択したことに満足している
3. 私は、自分なりに、現在の専攻に打ち込んでいると思う
4. 私は、現在の専攻を生かした職業につきたいと思う
5. 私は、これからも、現在の専攻を生かしていきたいと思う
6. 私は、現在の専攻に関して積極的に学んでいる方である
7. 私は、現在の専攻は、自分にあっていると思う
8. 私は、現在の専攻に関して、自分なりの意見をもっている方である

<付表 3> 自我機能調査票 (E F I) 尺度と項目例 (中西ら, 1989)

下位尺度	No.	項 目 例
1. 総合-統合機能	36.	私は、いっしょうけんめいに生きている
2. 現実感覚	9.	* 私は、「これが自分だ」という実感がもてない
3. 衝動統制	3.	私は、とても腹が立っていても、人前ではその気持ちを顔に出さずにいられる
4. 対象関係	4.	私は、互いに信頼し合い、助け合える友人がいる
5. 防衛機能	33.	* 私は、人の混み合っているところを、こわいと感じる
6. 刺激障壁	6.	私は、物音が気になって、なかなか寝つけなかったり、すぐ目がさめるほうである
7. 自律機能	35.	* 私は、仕事や勉強をやる気がおとろえているように感じる